

新たな総合体育館の利用イメージについて

(第7回総合体育館基本構想検討委員会資料)

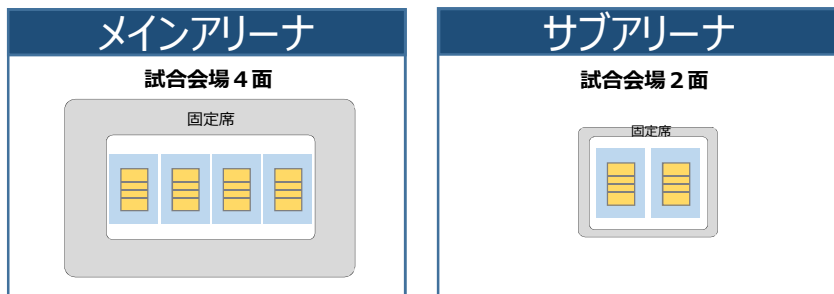
令和4年1月11日

1 スポーツ振興の拠点機能

○県大会

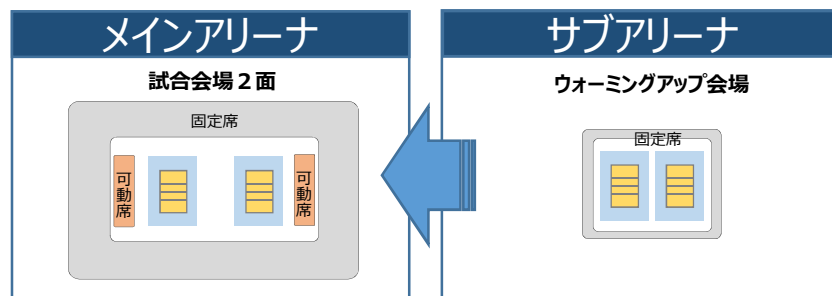
※諸室：会議室（役員会議，審判会議），関係者控え室などで利用
 ※大規模な大会の場合，柔剣道場を関係者控え室等として活用

大会 1～2日目（1回戦～準々決勝）



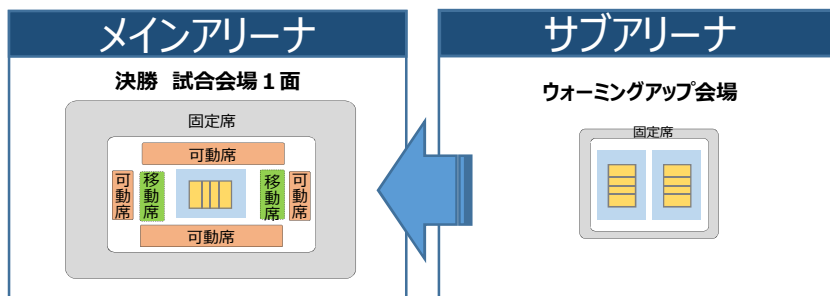
※大会の規模により他会場も使用
 ※ウォーミングアップは，廊下等の空いているスペースで行う。

大会 2日目（準決勝）



※ウォーミングアップ後，メインアリーナへ移動

大会 2日目（決勝）



※ウォーミングアップ後，メインアリーナへ移動

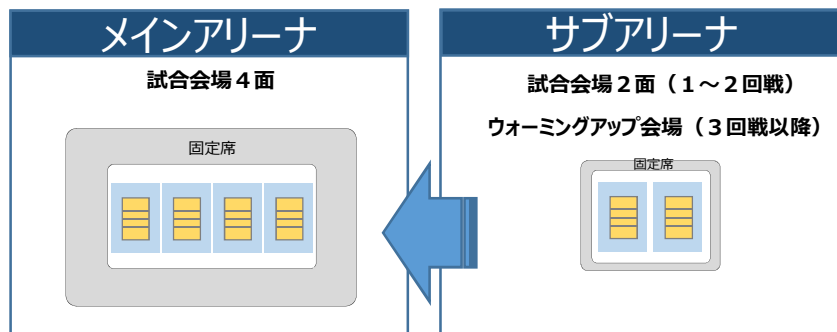


（利用イメージ：大阪市中央体育館）

○全国大会

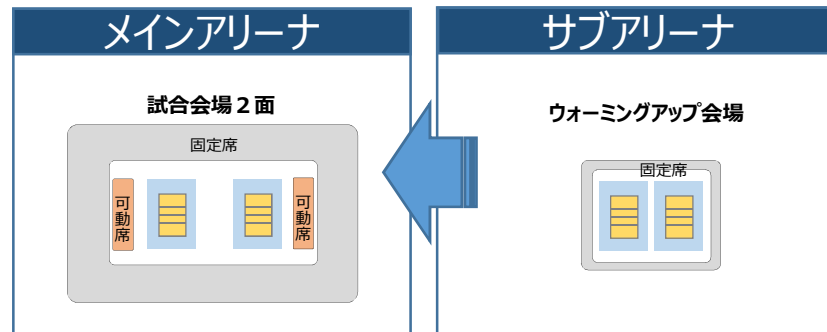
※諸室：VIP室，マスコミ対応，ドーピング関係，会議室などで利用
 ※柔剣道場は，関係者控え室等として活用

大会 1～3日目（準々決勝）



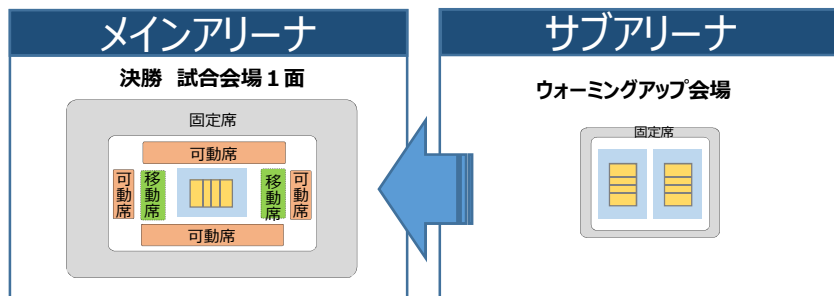
※ 1～2回戦は，メイン・サブ全面を試合会場として使用
 (ウォーミングアップは廊下等の空いているスペースで行う。)
 ※ 3回戦以降は，サブアリーナでウォーミングアップ後，メインアリーナへ移動

大会 4日目（準決勝）



※ウォーミングアップ後，メインアリーナへ移動

大会 4日目（決勝）

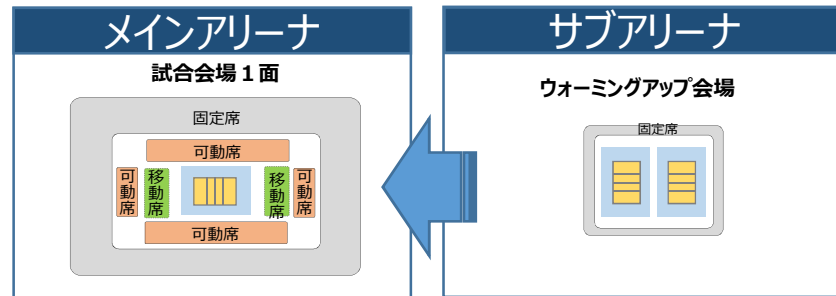


※ウォーミングアップ後，メインアリーナへ移動



(利用イメージ：武蔵の森総合スポーツプラザ)

○国際大会・プロスポーツ

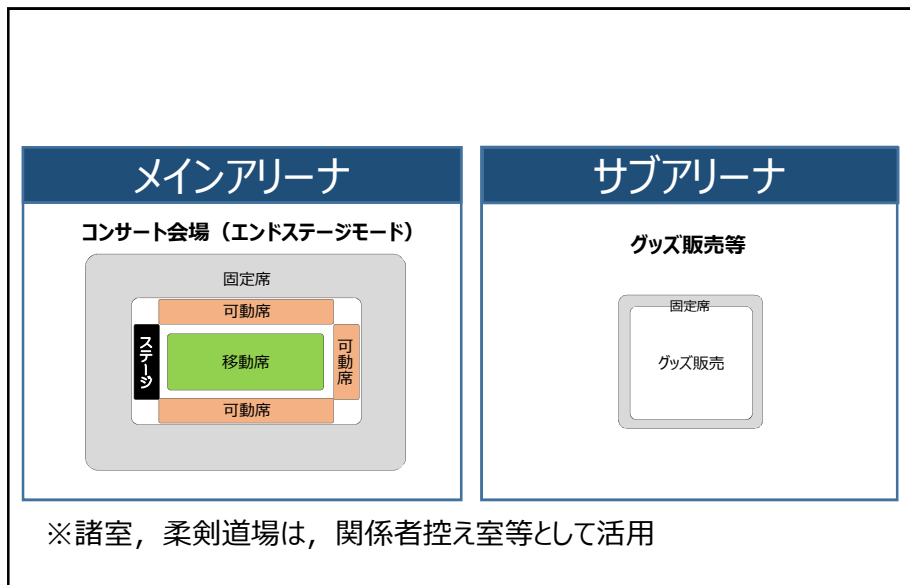


- ※ウォーミングアップ後、メインアリーナへ移動
- ※諸室：VIP室，マスコミ対応，ドーピング関係，会議室などで利用
- ※柔剣道場は，関係者控え室等として活用
- ※需要予測調査では，現在のレブナイズの利用状況を踏まえプロスポーツにおけるサブアリーナの利用がないが，将来的には利用の可能性あり



2 多目的利用による交流拠点機能

○コンサート



○その他イベント（MICE）

※MICEについては，次ページ以降で事例を紹介



(利用イメージ（大会）：広島県立総合体育館)



(利用イメージ（展示会）：香川県新総合体育館)

○その他イベント（MICE）

※MICEについては様々な形態が考えられることから、ここでは、需要予測調査における類似施設の
広島県立総合体育館における2事例を紹介

学会（医学系）

参加者約7,600人の大規模な学会を近隣のホテル、ホールと連携して開催した事例

プログラム

会場	NTT クレドホール	リーガロイヤルホテル	広島県立総合体育館		
施設	ホール (定員800席)	ホール・宴会場 (8会場)	武道場 (2会場)	会議室 (3会場)	メイン アリーナ
1 日目	開会式	・講演・シンポジウム ・ワークショップ ・パネルディスカッション 等			医療機器展示
	・特別講演 ・記念式典 ・ミニコンサート				
2 日目	・特別講演				
3 日目	・セッション				
	閉会式				

位置図



広島県立総合体育館の規模・構成

- メインアリーナ：バスケットボールコート4面(3,840㎡)
最大収容人数 1万人
- サブアリーナ：バスケットボールコート2面(1,700㎡)
- 武道場：柔剣道場各4面

《 施設の活用方法 》

- 総合体育館のメインアリーナは展示会場として医療機器を展示
- 開会式、式典、特別講演はホールで開催
- その他の講演やシンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッションは、ホテルと総合体育館の諸室を使用し分散して開催

大会（国際会議）

参加者約 1 万 2 千人の大規模な大会（国際会議）を近隣のホテル，国際会議場と連携して開催した事例

プログラム		※主なもの			
会場	広島県立総合体育館	リーガロイヤルホテル	広島国際会議場		ハノーバー庭園ほか
施設	メインアリーナ	ホール・宴会場（6会場）	会議室（4会場）	ホール（定員1,500人）	
1日目		記者会見等 歓迎夕食会			
2日目	開会式	レセプション			
3日目		・セミナー，各種会議 レセプション			バザール・展示会
4日目				閉会式	



《 施設の活用方法 》

- 総合体育館のメインアリーナは開会式の会場として使用
- レセプションはホテル，会議等はホテルと国際会議場で開催
- 隣接する公園で関連するイベントを開催

○その他

- 近年の体育館・アリーナでは、これまで紹介したスポーツ大会や各種イベントの利用者のみならず、市民、県民が幅広く利用できるような工夫がなされている。
- ここでは、立地が類似すると思われる香川県と神戸市の事例、現在整備を進めている佐賀県の事例を紹介する。

香川県新総合体育館

※R6年度竣工予定。最大収容人数1万人規模（中四国で最大級）の多目的アリーナとして建設を進めている。

●新県立体育館の特徴（実施設計概要）

- 人々が気軽に立ち寄り、回遊できる開かれた施設
- エントランス広場や交流エリアなど、建物内外に公共空間を確保
- 高さを低く抑えた曲線状で構成し、サンポート高松の景観に調和
- ユニバーサルデザインに対応



【交流エリア～競技フロア・観客席・ロビーが一体となった、新しい空間～】



- 観客席上部に壁を設けないことにより、アリーナ面と一体感を確保
- イベント時には、ロビー・通路として利用でき、イベントに関連する催しや物販の利用も想定
- 海への眺望も開けた北側は、単独での利用も可能であり、キッチンカーでの乗り入れも可能
- イベントが開催されない際にも、県民がつどえる場所として活用

神戸アリーナ

※神戸市が公募した新港突堤西地区（第2突堤）再開発事業として建設が予定されている大規模多目的アリーナ
エヌ・ティ・ティ都市開発が代表企業の企業グループによる民設民営方式での整備

●神戸アリーナの特徴（計画提案書概要）

プロスポーツ興行，国内外トップアーティストによる音楽興行，M I C E など，多様な興行や演出に対応できる，関西圏では数少ない1万人超規模



○プラザ

興行時，非興行時ともに，様々なイベントが開催可能で，最大3千人が滞留できるオープンスペース

○コリドー

アリーナと水際緑地をつなぐ歩行者専用の街路空間を創出
コリドー沿いには，飲食店舗やオープンテラスを計画



施設鳥瞰図



プラザ



コリドー

※2024国民スポーツ大会の開催に向け、スポーツだけでなく多目的な利用が可能な施設として、総合運動場等と一体的に整備

● SAGAアリーナの特徴（総合運動場等整備基本計画等から抜粋）

- ・「観る」スポーツの拠点施設として、トップアスリートやプロの試合が観やすい施設
- ・運営者や使用者、観戦者の視点で設計を行い、施設の利用価値を高める。
- （メインアリーナ）バスケットボールコート3面
観客席：約8,400席（固定、可動）
- ・観客を安全に滞留、移動させる空間を整備するとともに、人が集える場所としてテナント棟を整備

施設配置（空間設計）計画



○滞留空間・エントランスホール
十分な滞留空間と広い間口のエントランスホールを設け、飲食にも対応できるスペースを設置



○テナントゾーン
人が憩い、集えるような場所とするため、カフェやレストラン等の有料テナントが入ることができるテナントゾーンをペDESTリアンデッキと一体的に整備